

## ジンバブエ経済（関連報道とりまとめ：3月1日～15日）

- 1 政府がリチウム精鉱の輸出を一時停止
    - (1) 「禁止」ではなく「一時停止」
    - (2) 中国資本による国内リチウム加工事業計画が加速
    - (3) プレミア・アフリカン・ミネラル社も加工工場を設置予定
    - (4) 規制強化の背景にリチウム鉱石の過剰採掘・密輸の横行
  - 2 タバコ販売シーズンが開始、超過供給による価格下落の懸念
  - 3 金融政策声明
    - (1) 外貨の強制廃止はしないと明言
    - (2) 新 ZiG 紙幣を4月に発行予定
  - 4 ガソリン価格が1リットルあたり1.71米ドルに上昇
  - 5 国営ムタパ・エナジー・ミネラルズ社のリチウム精製工場が2027年末に完成予定
  - 6 コスメやウィッグを5年間で1億4千万米ドル以上輸入
  - 7 政府がジンバブエ国家 AI 戦略（2026-2030）策定
  - 8 高燃費のホンダ・フィットがジンバブエで人気
- 

### 1 政府がリチウム精鉱の輸出を一時停止

#### (1) 「禁止」ではなく「一時停止」

先週、政府は未加工リチウム輸出を一時停止したことで、リチウムの国際価格の上昇を招いた。鉱山・鉱山開発大臣は、この措置が「禁止」ではなく「一時停止」であり、主な目的はリチウム産業の透明性強化と国内付加価値化、そして環境配慮にあると説明した。政府は今後、業界関係者との協議の結果次第で柔軟に対応しつつ、最終的な目的は資源利益の公正な配分と持続可能な鉱業の実現にあるとしている。（1日付サンデーメール紙4面）

#### (2) 中国資本による国内リチウム加工事業計画が加速

政府がリチウム精鉱の即時輸出停止を発動したことで、中国資本を中心とする鉱山会社は現地での加工事業計画を加速させている。中国系華友コバルト社傘下のプロスペクト・リチウム・ジンバブエ社は、4億米ドルを投じ年40万トンの処理が可能な精製工場を今後数週間で稼働予定。国営ムタパ・エナジー・ミネラルズ（Mutapa Energy Minerals）も中国資本で年60万トン処理の工場建設に着手する。中国系シノマイン社傘下ビキタ・ミネラルズ社も5億米ドル規模の硫酸リチウム工場の実現性を調査中である。（2日付ニュースデイ紙7面）

#### (3) プレミア・アフリカン・ミネラル社も加工工場を設置予定

政府がリチウム精鉱を含む全ての未加工鉱物の輸出を即時停止すると発表したことに対し、プレミア・アフリカン・ミネラル社（Premier African Minerals）は、自社が手がけるズールー・プロジェクト（Zulu project）の今後の商業生産には影響しないと

の見解を示した。同社は新たな工場 (flotation plant) の設置作業を継続しており、政府の付加価値強化政策や鉱物輸出管理の方針に沿った付加価値化戦略を鉱山・鉱山開発省と協議済みだと説明した。これによりズールー・プロジェクトは規制の対象からある程度除外される見通しであり、工場稼働後の生産計画は予定通り進むと自信を示している。(3日付ニューズデイ紙ビジネス1面)

(リンク：<https://www.newsday.co.zw/business/article/200052194/lithium-suspension-wont-derail-zulu-project-premier>)

#### (4) 規制強化の背景にリチウム鉱石の過剰採掘・密輸の横行

政府がリチウム精鉱の即時輸出禁止に踏み切った背景には、資源の流出や申告不正、国家収入の大幅損失への強い危機感がある。リチウム原鉱にはタンタルやベリル、スズなど高価な副産物が含まれるが、国内の精密分析設備が未発達なため、これらが未検出のまま国外流出し、正当な課税や収益化ができない実態も指摘された。(8日付サンデーメール紙ビジネス1面)

(リンク：<https://www.heraldonline.co.zw/why-its-important-for-zimbabwe-to-ban-raw-lithium-exports/>)

## 2 タバコ販売シーズンが開始、超過供給による価格下落の懸念

(1) 4日、2026年のタバコ販売シーズンが開幕し、初競り価格は1kgあたり4.60米ドルと前年より5セント安で取引が始まった。農家収入の多様化や現地加工率向上、持続可能な生産体制の構築を掲げる「タバコ・バリューチェーン変革計画2 (TVCTP2)」も始動した。今季は3つのオークション会場 (新設の Ethical 含む) と5つの地方拠点で取引を実施し、支払いは米ドル7割・ZiG3割の構成を昨年から維持した。(5日付ヘラルド紙1面)

(リンク：<https://www.heraldonline.co.zw/first-tobacco-bale-fetches-us460-per-kg-as-selling-season-begins/>)

(2) 2026年のタバコ販売シーズンが始まったが、初日のオークションで低価格が提示され、農家の強い反発を招いた。農家団体は「納得できない水準」として作物の出荷を渋っており、買い手も初日はごく少数にとどまった。今季は記録的豊作が見込まれるものの、ブラジル、ザンビア、タンザニアなど他国でも生産増、さらに最大輸出先の中国が消費者嗜好の変化等により輸入削減に動いたことが市場の超過供給と価格下落を招いている。(4日付ニューズデイ紙)

(リンク：<https://www.newsday.co.zw/business/article/200052238/farmers-reject-low-tobacco-prices-as-zimbabwe-selling-season-opens>)

## 3 金融政策声明

### (1) 外貨の強制廃止はしないと明言

2日、ジンバブエ中央銀行 (RBZ) のムシャヤヴァヌ総裁は、金融政策声明に関する説明会において、今後、外貨の強制廃止はせず、安定と外貨準備増加 (現在の輸入額1.5カ

月分から同 5~6 カ月分に増加) によって現地通貨の需要を高めると説明し、政策は市場主導による外貨建て契約も尊重するとした。(3 日付ヘラルド紙 2 面)

(リンク : <https://www.heraldonline.co.zw/zig-trust-must-be-earned/>)

#### (2) 新 ZiG 紙幣を 4 月に発行予定

新たな ZiG 紙幣の発行が官報で告示され、4 月 7 日から高度な偽造防止機能を備えた新紙幣 (10・20・50・100・200 ZiG) が流通開始となる。10ZiG、20ZiG 紙幣は従来の 2024 年発行券と無期限で併用可能。(5 日付ヘラルド紙 3 面)

(リンク : <https://www.heraldonline.co.zw/new-zig-banknotes-gazetted/>)

#### 4 ガソリン価格が 1 リットルあたり 1.71 米ドルに上昇

ジンバブエ・エネルギー規制庁 (ZERA) は、国際市場の動向を受けて、ディーゼル及びガソリン (E5、最大 5%のエタノール混合) 価格の即日引き上げを発表した。新価格はディーゼルが 1 リットル当たり 1.77 米ドル、ガソリンが 1.71 米ドル。4 日までの価格 (各 1.52 米ドル、1.56 米ドル) から大幅な値上げとなった。ZERA によれば、本来の市場調達コストに基づけば各 1.90 米ドル、1.81 米ドルとなるはずだったが、政府が一部課税を減免した結果、現行水準に抑えられているという。(5 日付ヘラルド紙 2 面)

(リンク : <https://www.heraldonline.co.zw/diesel-petrol-prices-up/>)

#### 5 国営ムタパ・エナジー・ミネラルズ社のリチウム精製工場が 2027 年末に完成予定

4 日、チウエンガ副大統領は、ミッドランド州ムベレングワ地区のサンダワナ鉱山及びズビシャバネのリチウム精製プラント建設現場を視察した。サンダワナ鉱山は 2023 年に操業を開始し、現在はムタパ・エナジー・ミネラルズ社が所有。探鉱結果では酸化リチウムで 3,900 万トンの採掘が見込まれる。中国資本によるリチウム精製工場は今年 6 月に着工し、18 か月で完成する予定である。(6 日付ニューズデイ紙 1 面)

(リンク : <https://www.newsday.co.zw/local-news/article/200052323/lithium-to-spur-industrialisation-chiwenga>)

#### 6 コスメやウィッグを 5 年間で 1 億 4 千万米ドル以上輸入

ジンバブエは過去 5 年間で化粧品やウィッグなどの個人ケア関連商品を 1 億 4 千万米ドル以上輸入している。最大額はメイクアップ・スキンケア (4,360 万米ドル)、歯磨き類 (2,000 万米ドル)、香水類 (1,640 万米ドル)、ウィッグ・まつ毛製品 (合計 3,050 万米ドル) など。都市部では輸入コスメ小売店や外資系商社 (Inuka Fragrances、Avon 等) が急増しており、背景には所得上昇による美容・ライフスタイル志向の高まりがある。政府は民間・金融機関と連携し国産化・付加価値化政策を推進しており、大学のイノベーション拠点では学生主導でリップクリームやハーブシャンプーなど試作品開発も進む。(8 日付サンデーメール紙 3 面)

(リンク : <https://www.heraldonline.co.zw/zim-spends-us140m-importing-cosmetics-wigs-and-toiletries/>)

## 7 政府がジンバブエ国家 AI 戦略（2026-2030）策定

（1）13 日、ムナンガグワ大統領は、国会議事堂で開催された「ジンバブエ国家 AI 戦略（2026-2030）」の発表イベントに出席した。ジンバブエでは、携帯通信サービスの普及やインターネットアクセスの向上により、多くの国民が情報通信技術を利用できるようになり、AI 分野でも独自のエコシステムが根付きつつある。農業向けローカル言語 AI チャットボット、価格予測モデル、作物病害検知など課題に即した AI ソリューションの開発も進行している。今後は公衆衛生や環境モニタリング等への応用をさらに拡大予定。金融、行政、都市計画、エネルギー分配でも AI 活用が進み、官民連携による産業変革が期待される。（14 日付ヘラルド紙 1 面）

（リンク：<https://www.heraldonline.co.zw/zim-takes-digital-leap/>）

（2）ジンバブエ国家 AI 戦略策定は UNESCO の AI 準備状況評価（AI Readiness Assessment）や全国規模の関係者協議を踏まえており、農業、医療、起業、教育など多分野の声を反映している。AI 人材開発、インフラ・計算主権（infrastructure and computational sovereignty）、公的部門改革、ガバナンス・倫理、研究・イノベーション、国際協力・外交の 6 つを主要な柱として設定し、特に女性、若者、障害者、農村の包摂性に重点を置く。実施体制としてデジタル規制委員会や AI 戦略実施オフィス、技術ワーキンググループを設置する。今後 18 カ月で「AI グランドチャレンジ」「AI イノベーション基金」などの主要プロジェクトを展開予定。（14 日付ヘラルド紙 2 面）

（リンク：<https://www.heraldonline.co.zw/zim-unveils-home-grown-national-ai-strategy/>）

## 8 高燃費のホンダ・フィットがジンバブエで人気

都市部では、シルバー、ブラック、ホワイトのホンダ・フィットやトヨタ・アクアが街中を席卷し、多くの市民が「最も良い車」と信じている。ホンダ・フィットは信頼性、耐久性、燃費の良さで人気を集め、専用オーナー組織「Team Honda Fit Zimbabwe」も存在する。配車サービス（InDrive）や違法タクシー（ムシカシカ）としても活躍。専門家は燃費効率が他車種より高い点を評価する。中古車輸入業者によれば、ジンバブエ人は耐久性より燃費を最重視して車選びをする傾向が強い。現地の販売現場でも「ホンダ・フィットが圧倒的人気」との証言が目立つ。結局、フィットは「安く、信頼できる靴のような存在」として市民の生活に定着している。（14 日付ニュースデイ紙 1 面）

（リンク：<https://www.newsday.co.zw/local-news/article/200052649/inside-zimbos-honda-fit-hype>）